

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 自ら追究したくなる課題設定、必然のある活動・交流を位置付け、楽しく学び合い、主体的に表現できる授業の改善 「岐阜MIRAI's」にかかわる活動で、人・もの・ことに主体的・直接的に関わるよう、意図的・計画的に実践を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「学び合い」「助け合い」が、高評価傾向「学び合いで学力を身につけている」「友達の良いところを見つけられる」いずれも「5」「4」が圧倒的多数。児童自身が「一緒に学ぶ・助け合う」ことを自然と実践できている。 英語教育の取組について「よい」「概ねよい」と回答した保護者は約80%であり、英語教育の必要性や学校の方針について一定の理解が得られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書に載っていないことをみんなで学べるように、調査したり研究したりする。趣味や思いを同じくする子と集えるクラブやサークルが学校にあるとよいのではないかと。 高学年、低学年との交流を一層深める機会を望む。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度からも、引き続き学び合いでの学習を進めていくが、授業における学び合いの質を一段上げるように努め、深い学びへとつなげるようにする。 どの子どもも、家庭学習や自己肯定感の向上に向けての取組ができるように、さらに家庭の見届けの協力を依頼する。 興味のあることについて集まり、情報交換をするようなことを休み時間に仕組むことも考えていく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会を核とした、地域の人的・物的教育資源を積極的に活用し、地域に根ざした心身ともに健康な子どもを育む活動の充実 スマート2期制の導入し「かかわり」「学び合い」を重点とする教育活動や学校行事等を効果的に位置づける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域の資源の活用としての評価は4.2。地域の方や関係施設と積極的に連携し、キャリア教育、総合的な学習の時間や生活科、家庭科などで多くの支援をしていただいた。 地域の方々と接する中で、多くのことを学び、感謝の気持ちをもって活動することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 夢ふれあい広場は、地域の大人が子ども達に楽しんでもらうイメージがあるが、逆に子ども達が地域の大人から幼児まで楽しめる企画を考えて運営すれば、自主性が育ち将来のまちづくりイベントに貢献できるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> より地域、家庭との連携を行い、教育活動における支援をお願いし、学びや活動がより深まることで子どもたちの生き抜く力が付くようにしていく。 学年ごとの体験の“ねらいの系統”で配置できるようにする。生活科・総合・家庭科・キャリア教育に地域の人・施設を一貫して位置付けていく。 子どもが主体となって、読み聞かせ、折り紙、考えたゲームなどを大人に行うことも考えていく。
あたたかさとしがたがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 他人を慮る児童の心を育む人権教育の推進。生命の尊厳の理解を深める教育の実践。 ICT機器の効果的な活用により、教育DXを推進し、報告、連絡、相談をより円滑に行い、子どもと向き合う時間の確保に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶」に関する取組は学校全体の強み「家庭・地域で挨拶」「挨拶をすることが楽しい」「挨拶ロードに参加している」など、挨拶に関する項目は学年・学級を問わず非常に高い評価。挨拶は学校文化として定着しつつある。 タブレット端末の使いすぎやルール不明瞭の指摘があるため、継続してDX教育を推進 	<ul style="list-style-type: none"> インリーダーやスポーツ少年団の子ども達が、公民館を利用する際には、あいさつをする子は少ない。 挨拶については、大人から挨拶をすることで、不審者との区別が難しいと感じているようだ。 AIが普及してきており、AI教育もこれからの課題になるように感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事の効率化を進めながらも充実した内容になるように子ども供に寄り添った指導や保護者、地域、専門機関との連携を深めていく。 保護者と連携し、児童に寄り添う教育相談の充実 タブレットを安心・安全に、そして学びが深まるように使うために、「いつ」「何を」「どこで」使うかをハッキリさせる。 「学校DX利用ルール」に明文化し、「時間 × 機能 × 場所」の整理を児童・保護者・教職員が分かるようにしていく。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 誰一人取り残さないための「かかわり」を重視した教育活動の推進 よさを認め自信に結ぶ見届け、評価を充実し自己肯定感を高める実践。 いじめ対策監を軸とし、全職員がいじめ未然防止に取り組み、早期発見、早期対応に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 差別やいじめがなく、やさしく関わられる:4.27。友だちの良いところを見つけられると肯定的回答が多く、あいさつができる子が多い、という自由記述が多数ある。いじめについて考える日を全校的に取り組むなど、学校のいじめ防止の取組が伝わり、早期発見・早期対応への信頼が高くなった。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめや差別については、子ども達も保護者も学校の取り組みを高く評価しているの、地域としては、学校を信じ見守っていく。 老人会で見守りをしている時、挨拶をする子ども達から挨拶が帰ってくるので、元氣をもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して、年度当初に、学校いじめ防止基本方針の年次改訂版をHPで公表、新入生・年度初の保護者会等で周知していく。 校内研修等で、法・国の基本方針・重大事態ガイドラインの要点を確認していく。 あいさつ運動を地域連携で継続して行う。学校では、意味付け、対話(なぜ挨拶するか)を道徳・学活等で扱っていく。
災害、事故に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 危険度の高い災害を想定し「自分の命は自分で守る」態度を育む、命を守る訓練等の実施。 非常時に地域ごとに集まれる体制づくりと自治会と連携した緊急下校訓練の実施。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 命を守る訓練が機能:4.85。健康・安全指導が適切:4.78。安全・安心領域評価が非常に高く「安心できるから学習に向かえる」基盤ができている。校区の自治会と連携を図った引き渡し訓練の実施。命を守る訓練など意図的・計画的に年間を通して実施し「自分の命は自分で守る」意識を高めるための事前・事後指導をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 命を守る訓練については、非常に高い評価なので、地域の大人の方が心配がある。 自治会と学校が連携した取り組みを保護者に、もっと知らせてほしい。 地域全体で防災に取り組んでいる。自分の命は自分で守ることが、他の人も守ることにつながっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害の状況やより実際の状況を想定した実践になるように、《事前→発生時→事後》の3段階で整理し、毎回の訓練結果を評価して改善していく。 今後も、登下校時の安全確保や災害時での対応等、自治会・地域と連携した引き渡し・下校の手順を明確にし、ルート・集合場所・人数把握を地域と共有し、混乱の少ない安全な下校体制が取れるように努める。 地域の防災訓練で、子ども達が学んだことを発表することも良いのではないかと。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心に生活できるよう、校舎内外、教室環境を整備し、施設設備を有効に活用する。 年間の教育活動を見通し、財務や納入金の計画的かつ適切な運用をする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学びやすい環境づくり(肯定率 95.8%)。先生による環境整備・相談対応・防災訓練は極めて高評価。全校で掃除について考える日を設定し、児童も職員もみんなで美しい環境づくりをするための掃除習慣も身に付いてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本が世界に誇る美しい美化環境は、子ども達に学校で掃除する習慣が身につけているからだと思う。感謝している。 児童が丁寧に掃除をする姿を見ることがあった。一人一人が責任をもって美しい環境をつくらうと取り組めることが素晴らしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 安全な環境を維持するため、今後も安全点検などで早期発見・早期対応を行っていく。 学校だけでは環境整備を行えないこともあるので保護者や地域の方の力を借りていく。 安全な生活には、日常的な環境づくりと安全習慣の育成が不可欠であるため、「きれいな学校」から“自分たちで整える学校”へのステップアップをしていく。